言葉で感じる季節

花月夜（はなづきよ）

桜の季節に見られる満月の夜のこと。
桜月夜とも言われます。
少し霞かかった空に満月が浮かび、
月の明かりで桜の様子が見える柔らか
い風景が浮かびます。
月の明かりで照らされる草花が
美しいように、畑のねぎたちは
どんなたたずまいなのかと、ふと
夜のねぎ畑を想像しました。

冬の季節とはまた違って、春の陽射しで畑のねぎたちが少し透き通って見えたり、緊張がほぐれたような和みを感じているよう。畑でみるねぎたちのちょっとした表情を感じます。

古都・事・言　3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.191
2023年4月号
TEL：075-601-0668
こと京都株式会社

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

冬葱から移ろいゆく、春葱のお届けです

昨年11月頃に市内で定殖し育った春葱たち。冬を越え、春を迎えてと、約半年弱の長い間を畑で過ごしてきたねぎ。
年が明けてからは雨が少なかったのですが、3月に入ってからは20度以上になった日も続き、暖かい陽気に包まれ育ちました。
1月、2月に積雪のあった丹後エリアのねぎも少量あります。
雪の下になったねぎも、今年は雪解けが早かったおかげもあり、この4月には立派な春葱となって収穫することができました。私たちと同じで春の訪れを喜んでいるねぎたちです。

KOTO GROUP 4A

農人たちの畑での作業の様子、THE農業！の現場の「こと」を発信

暖かな季節の天敵「ねぎ坊主」出現

春を迎えたばかりではありますが、同時に夏葱の準備も本格的に始まり、機械と人の手で定植を行っていきます。作業量も一気に上がり、暖かな春の気候の中で良い汗をかいて作業をしていると気持ち良いです。農業やってて良かったなと感じる瞬間。ただ、花粉症に悩まされている農人も中には多く、予防したりくしゃみをしながら、なんとかやっている人も（辛いですね…）

今年は暖かくなるのが少し早く、「春が来たなぁ」と思ったら、ねぎ坊主が出てき始めました。
坊主の出始めに、すぐに摘めば問題ないのですが、収穫の順番待ちをしているとどんどん坊主も大きくなり、ねぎ自体も固くなってしまいやすくなります。私たちがお届けしている「こと九条ねぎ」は食べた時の「柔らかさ」も大事にしています。ねぎ坊主が大きくなったものは、柔らかさがなくなり固くなってしまったものとみなし、心苦しいですが、畑で刈り込み土に還ってもらいます。そうもならないようにと、追肥を行いねぎ坊主が出るのを遅れるように対策もしています。

1DAY 350g 野菜を食べよう プロジェクト

こと京都は
「野菜を食べよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。

とある日の農人日記。

普段なかなか、シャッターチャンスがない鷹を撮ることが出来ました。獲物を獲る瞬間、狙っている瞬間、格好良いなぁと少しワクワクしながら耕起作業をしていました。（丹後エリア・吉田）